



色と色を黒いボンドでつなぐボンドアートでは、それぞれの色や形が混ぜ合わされたり、崩されたりすることなく存在し続ける。すべての人のありのままが尊重される社会を希求する富永さんは、「アートに失敗はない！」をキーワードに活動している。

Who is this person?

「つながり」を創り、社会課題に向き合う 世界でただ1人の「ボンドアート」アーティスト

1983年福岡県生まれ。高校は情報処理科に進学。その後、家具づくりの専門学校に進み、家具メーカー勤務、グラフィックデザイナーを経て、アートの世界へ。木工用ボンドを使った独自の技法「ボンドアート（登録商標）」の創作のテーマは「つなぐ、つくる」。作品は海外でも評価され、ニューヨークやパリのギャラリーと作家契約を結んでいる。2014年から佐賀県多久市に移住。地域ににぎわいを取り戻すため、ウォールアート（壁画・シャッターアート）プロジェクトを発案。さらに、ボンドアートを楽しむ認知症カフェを作業療法士の妻とともに開催し、子どもの居場所づくりと多世代交流を目的とした子ども食堂を開くなど、アートを通して社会課題にも向き合っている。



黒く着色した木工用ボンドを使って、色と色の境目をつなぐ「ボンドアート」。



カフェやギャラリーなどを併設する活動拠点「ボンドバ」で、子ども食堂を開いている。

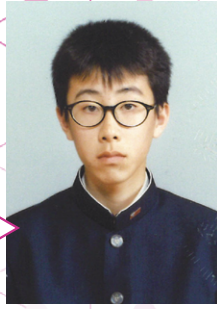
現代アート作家 富永ポンド

つながりを通して伝えたい。
アートにも人生にも
「失敗はない！」ことを。

個性を発揮できない故、個性を非難する若者たち

「自分には絵心がない」。そう言う人は少なくないですよ。でも、誰しも子どもの頃は、絵を描くことを楽しめていたはず。だげ絵の出来を人と比べられるようなことがあって、うまく描こうという気持ちが強くなり、絵を楽しむ心が次第に失われていく……。

「アートに失敗はない！」をキーワードに、学校や医療・福祉施設、イベントなどでワークショップを行い、これまで2万人以上にポンドアートを体験してもらってきたのも、創作



私の高校時代

絵を描くことは好きでしたが、人より抜きん出ていたわけではありませんでした。中学校でのパソコン実習がきっかけでコンピューターに興味を持ち、高校は情報処理科に進学しました。当時はプログラマーを目指していました。

プロセスを楽しむ中で「自分にしか描けない」アートを楽しみ、成功体験を味わってほしかったからです。

「まるで落書き」「意味が分からない」。僕の作品に対して、そんな誹謗中傷のコメントがSNSを通して送られてきます。過激なコメントの多くは10代の子たちのものです。普段の生活の中で、自分を正直に表現できず、そのイライラを僕にぶつけているのかもしれない。そうしたコメントに対して僕は、「そう思う人がいてもいい。でも、これが僕の絵であり、個性なのです」と、SNS上で答えます。すると今度はそれを見た人たちから、「自分も周りからイジられることがあるのですが、どうやってメンタルを保っていますか?」といった相談が来ます。それに対して僕は、こんなふうに返します。「いろいろ言われても大丈夫。それがあなたの個性なんだから」と。

「つながり」の中で自分と他者を尊重する

情報があふれている現代は、選択肢が多くあり過ぎて、かえって自分のやりたいことが見つけにくくなっていると感じます。僕が若い人たちに勧める

のは、楽しそうなことや興味を持ったことをとりあえずやってみる事です。思い切りやってみて、期待していたほど楽しくなかったり、飽きたりしたら、やめればいいのです。

やめることは決して悪いことではありません。僕も、パソコンの勉強を高校だけでやめたけれど、知識はちゃんと得られたし、今もパソコンは得意です。家具メーカーも1年くらいで退職しましたが、木工用ポンドで絵を描き始めたのは、その会社での経験があったから。飽きたと言えるくらい没頭することができたのなら、得たものも必ずあるはずですよ。

何を始めて、何をやめるか。その判断も一人ひとりの個性です。だから学校の先生には、何か新しいことをやってみようとする生徒はもちろん、もうやめようと思っている生徒も温かく見守ってあげてほしいと思います。そんな学校の中で、人と違ふことを恐れない心や、「人生に失敗はない!」と思える心が育つのだと思います。

僕が「つながり、つくる」を創作のテーマとしているのは、自分と他者との違いを尊重し合える社会を創りたいからです。つながらなければ他者のことは分かりません。ウォールアートも、ア

トリエでの認知症カフェや子ども食堂も、どれもアートの力で人をつなぐものです。社会の問題を提起し、「つながり」という視点で解決策を提案するのは、アーティストとしての自分の仕事だと思っています。

様々なテーマについて語りながらポンドアートを制作する動画を「ニコロ」に投稿。いじめなど悩みを抱える10代の質問に答えた動画も多い。



お勧めの分掌

管理職

教務担当

進路担当

担任